

脱炭素社会実現プロジェクト

「みんなで進める脱炭素のまちづくり」

なぜ脱炭素？

地球温暖化による異常気象や自然災害の増加が深刻化しており、本市においても線状降水帯による「令和3年7月豪雨災害」が発生し、近年例を見ない規模の被害を受けました。今後、暮らしの豊かさを追求しながら、災害に強く、エネルギーを自立できるまちづくりをめざします。

雲南市の脱炭素宣言と脱炭素社会実現計画

市は、2050年までに「温室効果ガス排出量実質ゼロ」をめざし、令和4年6月に脱炭素宣言を表明しました。この宣言を実行・実現していくために雲南市脱炭素社会実現計画を令和6年3月に策定しました。

これは、未来のこどもたちに安全で持続可能な環境を引き継ぐための、市を挙げた挑戦です。

市民の皆さんと一緒に

脱炭素は、暮らしの中の小さな行動から始まります。市は、市民・事業者・地域組織・行政が連携しながら取り組みを進めています。



脱炭素社会実現プロジェクト4つの柱

再生可能エネルギーの推進

- ・エネルギーの地産地消
- ・公共施設への太陽光発電・蓄電池導入
- ・水力発電の導入推進

市内でエネルギーの地産地消に取り組む皆さんを紹介します

株式会社うなん共創エネルギー

雲南市の地域エネルギー会社として4月1日に誕生し、4月8日に雲南市と連携協定を締結しました。地域の住民・事業者と共に課題解決を進めながら、エネルギーの地産地消、脱炭素を実現する会社です。設立してまだ間もないですが、地域の祭りや防災イベントの企画・運営、地域イベントに使用する電源提供、農業と関係人口をつなぐ取り組み、里山の水源環境改善と関係人口をつなぐ取り組み、地域の担い手不足対策など、さまざまな領域における共創に取り組んでいます。



▲防災研修の様子

雲南でエネルギー自治を実現する会

令和6年3月に発足し、市民や地元企業がどのようにエネルギー自治に関わっていただけるかを学び、協議してきました。今年度は、①再生可能エネルギーと地域づくりについての勉強会（全3回）を市内10地域に出張して提供する、②小水力発電ラボとして模型製作・先進地視察・市内の適地調査を行う、という活動を行います。地域の皆さんがエネルギーのことを自分事として捉え、地域内の経済循環につなげることをめざします。また、高校生や大学生の学びの機会を提供していきます。詳しくは下記二次元コードからご確認ください。



ウェブページ▶



▲小水力発電の適地調査の様子



省エネの推進

・公共施設の省エネ化（高い断熱性能、高効率の空調設備など）

R 6 年度：木次子育て支援センター建設

R 7 年度：加茂文化ホール「ラメール」改修、
加茂健康福祉センター「かもてらす」改修、
市営住宅中村団地建設

・公共施設の照明 LED 化

R 7 年度：先行モデル19施設ヘリース方式により導入（里方分庁舎、総合センター、体育館、学校、保育所など）

・EV車の活用促進

EV 充電設備設置

①普通充電：14施設

※今後の設置予定：4 施設

②急速充電：1 施設（道の駅「掛合の里」）

※今後の設置予定：道の駅「さくらの里きすき」
（2 基設置）
道の駅「掛合の里」
（1 基増設）



木次子育て支援センター



EV充電設備



森林資源の活用

・木造建築、建築材利用の推進、薪ストーブや薪ボイラーの普及推進など



ごみゼロ社会の実現

・ごみの削減と資源循環

・キエーロコンポスト[※]の普及、廃食油の再利用

※土中のバクテリアを利用して生ごみを消滅させる木製の容器



薪ストーブ

全体を支えるしくみ

・企業チャレンジによる官民連携の推進

▶株式会社アルプロン

（令和6年4月に協定締結）

地元企業と連携し、田んぼ^{なかぼ}の中干し期間延長によりメタンガスを削減し、J-クレジット[※]化により地域の農家所得向上と米の付加価値向上を図る取り組みを推進中。

※J-クレジット：削減された温室効果ガスの量を「クレジット」として国が認証する制度



▶カナツ技建工業株式会社

（6月に協定締結）

廃食油を生かして地域内で循環するエネルギー「高純度バイオディーゼル燃料」を製造。

市は回収支援・仕組みの構築などで連携します。



市民の声で動き出す！脱炭素アクション

事例紹介

01

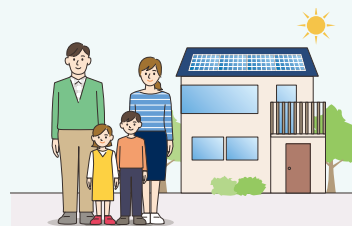
Mさんの再エネライフ（太陽光パネルを自宅に設置）

10年前に、市の補助金を活用し、太陽光パネル（4.0kW）を設置しています。自家消費を中心に、残りはFIT（固定価格買取制度）で売電。災害が起きても非常コンセントで充電が可能で、3日間自宅で過ごすことができます。

台所に発電モニターがあり、発電状況を確認できます。緑のランプがつくと、余剰分を売電しているサインなので、家族みんなでチェックしながら電気を使っています。

おすめは子育て世代の方です。夏休みにこどもが自宅にいても、電気代を気にせず冷房を使用しています。

さらに、夜間の電気を使うので、蓄電地があればさらに電気代の削減につながります。

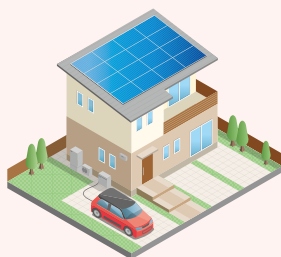


02

Hさんの省エネライフ（電気自動車の活用）

1年前に、2台目の電気自動車を購入しました。電気自動車歴5年です。ガソリン車と比べて静かで、加速も良く、アクセルを踏む動きが伝わるので、雪道でも安心して運転できます。

自宅に太陽光発電設備と蓄電池を設置しているので、電気自動車の充電は再生可能エネルギーを使用するため環境にも優しく、電気代もほとんどかかりません。



1回の充電で180km走行可能で、雲南市から米子市へ往復走行できます。

急速充電で30分充電した場合、充電容量の50%程度です。市内にも充電設備を設置している公共施設が増えたため、時々利用しています。

ガソリン代の高騰に影響を受けることなく、停電時には蓄電池としても活用できるのでお勧めです。

03

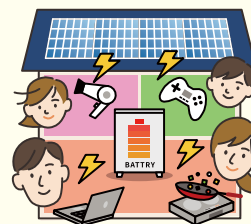
Tさんの省エネライフ（省エネ住宅）

現在の省エネ住宅に住み始めて2年半になりました。

高気密・高断熱の家が良い事は知識としては知っていましたが、実際に住んで体感してみると、もう前の住宅には住めないほど快適で満足しています。

夏は再熱除湿機能付きのエアコン（8畳用）1台のみの稼働で、温度・湿度を一定に保っています。冬は床暖房と換気システムに付いている加湿機能で温度・湿度を一定に保っています。

省エネ住宅に住んで一番衝撃的だったことは「衣替えが無い」ということです。夏も冬も家の中では同じ服装で、こたつや冬用の布団も必要ありません。また、こたつや布団などをしまうスペースも節約になるので、昔ほどの収納スペースが無くてもなんとかなっています。さらに、高気密・高断熱だと壁や窓も厚いので、音が外に漏れにくく、子育て世代にとってはこどもの泣き声などで周りを気にしなくて良いところも精神的な余裕を生んでくれています。



※掲載内容は個別の状況での個人の感想です。

キエーロコンポストで生ごみ処理に挑戦中！

キエーロコンポスト 利用者の声

「キエーロコンポストを使うようになってからは、ごみも軽くなり、ごみ出しの回数も減りました。環境にもお財布にも優しい取り組みです」
- 三刀屋町在住・60代主婦 -



「生ごみを減らせて、臭いも気にならないです。ごみ出しが楽になりました」
- 吉田町在住・70代男性 -

「キエーロコンポストの中で、かぼちゃのつるが伸びていました。こどもたちと観察しています」
- 大東町在住・30代女性 -



地域おこし協力隊

資源循環コーディネーター

やまぐち なおと
山口 直登 さん

脱炭素社会の実現に向けて、「キエーロコンポスト」の普及活動と、高純度バイオディーゼル燃料の原料となる菜種の生産、活用に取り組んでいます。



▲山口さんとキエーロコンポスト

参加しよう！脱炭素アプリ「SPOBY」で脱炭素市民チャレンジ

- ・マイボトル持参、廃食油回収、キエーロコンポスト活用などで脱炭素ポイントゲット
 - ・協賛店より提供された景品やクーポンあり
- 「SPOBY」についての詳細は市ホームページ（右記二次元コード）からご確認ください。

▼市ホームページ



お知らせ

1. 廃食油の回収を行っています

本庁舎、総合センターで回収箱設置中。

2. (参加費無料) 学習会&体験活動実施中

市では、次の学習会と体験会をセットにした活動を行っています。

- ・キエーロコンポスト製作
- ・廃棄野菜からつくられた「みんなのねんど」



▲廃食油回収ボックス

市民の皆さんへ

小さな行動が、まちの未来を変えていきます。雲南市と一緒に、一歩ずつ進んでいきましょう！

【問】環境政策課 Tel 0854-40-1033

